

～ 火や光を題材にした日本の祭り～

火や光を題材にした日本の祭りを照明探偵団の独断と偏見で選んでみました。今年は探偵団でも人と光との関係についてこのような祭りを調査しながら、探りたい考えています。この他にも興味深い祭りがありましたら是非探偵団事務局まで情報をお寄せください。

名称	開催日	場所・備考	ホームページアドレス
太宰府天満宮鬼すべ	1月7日	福岡県太宰府市宰府4丁目7-1(電話 092-922-8225)西鉄太宰府駅下車、参道を徒歩約5分	
火振りかまくら	1月14日	秋田県角館町観光情報センター(駅前0187-54-2700)	<a href="http://www.town.kakunodate.akita.jp/towns/san/maturi/hiburi.htm">http://www.town.kakunodate.akita.jp/towns/san/maturi/hiburi.htm</a>
若草山山焼き	1月15日	奈良市	<a href="http://www.kdoyukai.on.arena.ne.jp/yakei/100kei/matsuri/html/95.html">http://www.kdoyukai.on.arena.ne.jp/yakei/100kei/matsuri/html/95.html</a>
お燈祭	2月7日	和歌山県速玉大社の摂社・「神倉神社」の大祭	
半僧坊火祭り	2月16日	静岡県引佐町奥山半僧坊火まつり”	
阿蘇の火祭り	3月13日	九州熊本県阿蘇町阿蘇の火祭り火焚き神事	
嵯峨大念仏狂言とお松明式	3月15日	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町 清凉寺(075-861-0343)「嵯峨釈迦堂前」下車、徒歩3分	
阿蘇の火振り神事	3月24日	熊本県一の宮町	
近江八幡篠田の火祭り	5月4日	近江八幡篠田の火祭り	<a href="http://www.kdoyukai.on.arena.ne.jp/yakei/100kei/matsuri/html/99.html">http://www.kdoyukai.on.arena.ne.jp/yakei/100kei/matsuri/html/99.html</a>
那智の火祭り	7月14日	和歌山県「那智の火祭り」・「扇祭り」と言われる熊野那智大社	
能登島町のキリコ	7月31日	石川県能登島町向田の火祭り 日本三大火祭りのひとつ	<a href="http://www.town.notojima.ishikawa.jp/noto3/no3.html">http://www.town.notojima.ishikawa.jp/noto3/no3.html</a>
ねぶた祭り	8月2～7日	青森県	<a href="http://www.nebuta.or.jp/">http://www.nebuta.or.jp/</a>
秋田竿灯祭り	8月3～6日	秋田県	<a href="http://www.kantou.gr.jp/">http://www.kantou.gr.jp/</a>
柱松	8月15日前後	和歌山県紀和町「入鹿の柱松」ほかに太地町、新宮市佐野	
城屋揚松明	8月14日	京都府城屋揚松明舞鶴青年会議所	<a href="http://www.dance.ne.jp/~mai-jc/home/jimo/jouya.html">http://www.dance.ne.jp/~mai-jc/home/jimo/jouya.html</a>
松尾の火柱	8月15日	三重県鳥羽市松尾河内盆の深夜送り火 国指定無形民俗文化財	<a href="http://www.toba.or.jp/maturi-himaturi.htm">http://www.toba.or.jp/maturi-himaturi.htm</a>
精霊流し	8月15日	長崎県長崎市精霊流し盆の送り火	
二河の火祭り	8月23日	和歌山県那智勝浦町湯川二河・金剛院で	
百八灯	8月16日	長野県伊那市西箕輪大萱	
輪島大祭	8月23～25日	石川県輪島市 別情報	<a href="http://www.wajima.or.jp/festival/taisai.html">http://www.wajima.or.jp/festival/taisai.html</a>
吉田の火祭り	8月26日	山梨県富士吉田市別情報	<a href="http://www.habi.ne.jp/inasa/bunka/bunka-14a.html">http://www.habi.ne.jp/inasa/bunka/bunka-14a.html</a>
ケベス祭	10月14日	大分県国見町ケベス祭岩倉八幡社(別情報)	<a href="http://www.oec-net.or.jp/~kunimi/kebesu.html">http://www.oec-net.or.jp/~kunimi/kebesu.html</a> <a href="http://www2.pref.oita.jp/10400/toyo_info/m6/m63.html">http://www2.pref.oita.jp/10400/toyo_info/m6/m63.html</a>
鞍馬の火祭り	10月22日	京都市鞍馬	<a href="http://www.kdoyukai.on.arena.ne.jp/yakei/100kei/matsuri/html/94.html">http://www.kdoyukai.on.arena.ne.jp/yakei/100kei/matsuri/html/94.html</a>
松明あかし	11月第2土曜日	福島県 翠ヶ丘公園内、五老山 日本三大火祭りのひとつ JR須賀川駅より車5分	
松例祭	12月31日	山形県羽黒町松例祭別情報	

\* 日程についてはWebのデータを参考にしているので、詳細はご確認ください。



# 面出の探偵ノート

●第28号 2002年2月14日 木曜日

## グランドハイアット・ソウルの窓辺より

今日はバレンタイン・デー。中国の旧正月、ランタンフェスティバルに色づく長崎にきています。2月に入って東京はけっこう冷え込んできて、やっと日本の冬の感覚が戻ってきたような気がします。暖かい冬は好きになりません。早朝の表参道をオフィスに向かって歩いていても、極寒だからこそ春の訪れがもう直ぐだな…という気になってくるものです。冬は寒くなくてはいけません。世界の経済不況も今がどん底ですから、いま少し耐えて明るい明日だけを待っていればいいのです。もう少し。Take it easy ……

探偵団通信の編集を担当しているスタッフから、韓国ソウルの街明かりについてレポートして、と頼まれました。ここの所とても頻りに東京-ソウルを行ったり来たりしているからでしょう。実際、今年になって既に3回ほどソウルに出張しました。原稿を頼まれた時に、気軽にOK・OK…などと受けておきながら、通信発刊のギリギリまで書かず焦っているのは、どうもソウルの街明かりに明確な特長を感じていないからのようです。実は私はソウル大好き人間。そこには大学時代からの友人もたくさんいて、昔から国内旅行のようにソウルを訪問しては上手い韓国料理を食べています（焼肉はあまり食べませんが…）。しかしソウルの照明は…となると一言で解説できないのです。常々厳しい視点で見ている照明探偵団員としては困った事態ですが。

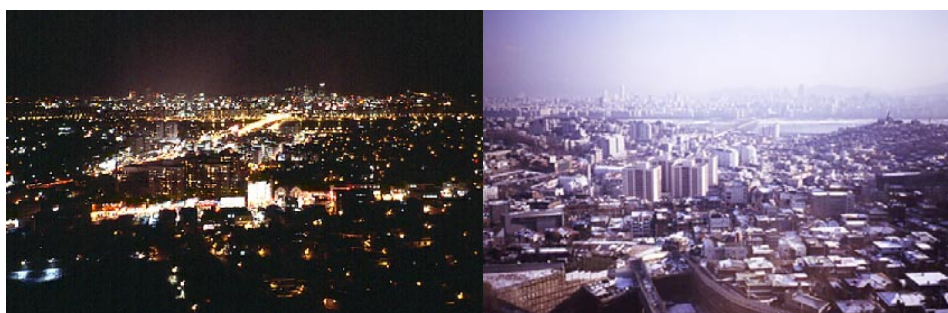
昔はソウルに行けば必ず旧市街にあるミョンドンをふらついていました。たくさんのお洒落なブティックやショップに混じって、全羅州石焼ビビンバ、百濟サムゲタン、コキコキのネンミョン（冷麺）など、美味しい飲食店がいっぱいある繁華街です。交差した道をぶらぶら歩いていると、一見新宿の歌舞伎町のような猥雑な光にも似ているのですが、歌舞伎町ほどの興奮を呼ぶわけでもなく、洗練された猥雑光でもないのです。原宿と新宿が同居してしまったような感じかな。だから、はっきりしないのでしょう。

その旧市街に対して、ソウル・オリンピック以降に急成長しているナムソウル（南ソウル）はまた違った気配の光に包まれています。ソウルの街を二分する大きな河川ハンガンの北が旧市街、南が新市街と言っているのですが、今は啞然とするほどに新市街の範囲が拡大していて、眼を見張るほどです。ナムソウルはテヘランロードと名付けられた東西軸を中心に大きな都市計画道路によって構成されていて、さながら名古屋の道路だけ立派な街を思い起こしますが、この新市街にこそ韓国の新しい文化が芽吹こうとしています。高層のオフィスビルが立ち並び、お洒落な商業ビルが進出し、各種のギャラリー、そして韓国料理と和風懐石とフレンチが混ざったようなフュージョン系のレストランに遭遇したり…。ここにもなんと称してよいか解らない光文化が見え隠れします。「新ソウル光」とでもしておきましょうか。もちろんライトアップされたオフィスや、ぎゅちりネオンの看板や、でもその横には光ファイバーと思える小技の効いた建築もあつたりします。う～ん、銀座と丸の内と、しかも急に亀戸の街が挿入されてしまったような感じかな。単純なカオス光でもないのです。

私たちは今幾つかの照明デザインのプロジェクをソウルでやっていて、その1つがハンガンの北、1つがハンガンの南に位置しています。どちらも Aaron Tan という若い建築家の率いる OMA Asia という事務所の設計によるもので、奇抜なアイデアの外観照明を要求されています。ちょっと派手な光でもあるので出来栄えに心配なところもありますが、ホテルと商業ビルなので、まあいいか…というところ。片方の商業ビルはあと数ヶ月で竣工する予定です。楽しみです。どんな風に仕上がるのか。

このプロジェクトのためにソウルに出張すると、施主の用意した南山の中腹に位置した見晴らしの良いグランドハイアットに宿泊することになります。（このホテルの宴会場や外構照明をずいぶん前に手伝ったことがあり、それ以来、私は夫婦してこのホテルを常々愛用していますが）このホテルからは凍てつく広大なハンガンとともに、その向こうに発展途上の新市街を一望できます。ここに掲載する写真はその雰囲気伝えることができるでしょうか。最上階の客室から南向きに撮影したものです。客室からだと同じアングルで朝・昼・夜の景色を同時に撮影することができます。上手く異なる景色を見ることができますか？ あっそうそう、この探偵団通信はチープな白黒簡易印刷でしたね。それでは私の微妙な心の乱れを拾うことはできないでしょう。夜は寂しげな街明かりに幾つかのライトアップやネオンサインが浮いて見えるのです。ハンガンはもちろん黒いベルトのように見えません。しかし朝早起きの私は、左前方から顔を見せる朝日のお陰で、とんでもなく心に染みる良い景色を見たのです。街の中のいたるところから立ち上がる無数の煙のある景色。冷え込んだ朝なのです。多分蒸気を含んだ朝の暖房の煙です。オンドルという韓国特有の床暖房を思いました。街のあちこちで立ち上がる朝の煙は人々の呼吸のようなものです。生きている街に見とれました。朝日がそれを祝福しています。特徴に欠ける牧歌的なソウルの夜景は、この何とも愛らしい早朝の景色にも繋がるのかも知れませんが、極寒のソウルに愛着を抱きました。

（面出 薫）



ホテルの窓から見たソウルの夜景（左）と早朝の街並み（右）

## 第 16 回研究会サロン

【東京ディズニーシー調査報告 / 上海調査報告 / シンポジウム「小嶋一浩の光の世界を考える」報告ほか】

2001年12月10日

## サロン報告

今回のサロンは、街もクリスマスイルミネーションで色づく12月10日に開かれました。

まず、街歩きの報告です。今回は、初めてのクリスマスを迎えたディズニーシーを訪れました。パーク内は、ほとんどが白熱ランプを光源とした3m前後のポール灯で計画されており、暗いベースの中にポール灯が点在する良い雰囲気だったようですが、遠方からの景色は今ひとつだったようです。ディズニーシーは水をテーマにしたパーク、水面への映りこみをもっと考えた照明計画、例えば、建物などをもっと積極的にライトアップして建物の姿が水面に移るようにすれば、もっと良かったのでは？と面出団長もちょっと残念そうでした。

次は、早川団員と田沼団員が訪れた講演会「小嶋一浩の光の世界を考える」の報告です。シーラカンスの小嶋一浩さんは、大学の授業でもダンボール箱を使って光のモデリングなどを行う常に光を考えた建築を作っている方です。ただ、ここでいう光というのは、昼光であり、自然としての光をいかに建築の中に取り込むかを考えていらっしゃるようです。小嶋さんは、光について考えるときに常に感じるのがボキャブラリーの少なさだとおっしゃっていました。もちろん照明の世界では間接照明、ウォッシュライト、ウェルカムマットなどの言葉がありますが、それらは人工的な光の作り方であり、どんな光なのかということに対しては、応えていないようです。ここで面出団長から面白い話を聞くことができました。光の表現の仕方は、どの程度の強さで、どの程度の範囲でと考えていくと最終的には、「パーン」とか、「ポワツ」とか、「ポツ、ポツ、ポツ」とかのサウンドで表現（サウンド・オブ・ライト）ということになってしまうということでした。また、お互いに同じイメージを持つためには、やはりどここの建築のあの壁を照らしている光といったように実際のもので考えていくしかないようです。実態を持たない光を表現することはやはり難しく、またそれだからこそ面白いのだと思いました。

今度は、前述したようなデリケートな話を忘れてしまいそうな面出団長が訪れた上海の照明事情の報告です。ビデオテープに映るその姿は、何の説明も必要としないくらいインパクトのあるものでした。ライトアップ、ライトアップ、ライトアップといった感じで、街中のビルがどこもかしこも明るく輝いている感じでした。人々が集う水辺では、キセノンのムービングライトが何箇所からも上げられていました。街の景色には、その国の事情が良く現れるのだなと感心しました。ここまでやってしまった上海は、今後どのような発展をしていくのでしょうか？

最後に東芝に勤めるインダストリアルデザイナーの米田さんより、「e-fashion」の紹介がありました。米田さんも参加しているこの展示会は、企業で働くインダストリアルデザイナーが集まり一つのテーマで作品を作っています。今回のテーマは「e-fashion」、ファッションにeつまり電子をつけることによって何か別のものができるのでは？というテーマだったようです。米田さんの作品は、上着の前面、胸の部分にカメラがあり、背中のところモニターがあるというものでした。後ろ姿を見るとまるで背中に穴があいたように見えます。原宿で開かれているこの展示会に後日行きましたが、eという部分に光ということも入るので、光の要素が散りばめられたものも多かったです。

光というのは、粒子であり、自然であり、人工照明であり、社会を移すものであり、実態を持たないものであり、たった一つの捕らえ方では、表現できない、非常に難しく奥深いものだと思えることができたサロンだったような気がします。

(竹内 聡美)



キャンドルのウェルカムライトが会場入り口でお出迎え



会場風景

2001年12月14日-26日、YMスクウェア原宿 VERSION GALLERY にて行われた『without thought 3』(IDEOJapan & ダイヤモンド・デザインマネジメント・ネットワーク (DMN) 機構 主催) に行ってきました。"e-fashion" が今回のテーマ。  
 今回この展示会に出展し、探偵団サロンでも作品を紹介してくれた、(株)東芝 デザインセンターデザイン第二担当 米田充彦さんにお話を伺いました。



米田 充彦さん

- 『without thought』とはどういうコンセプトなのでしょう？

without thought = 「考えない」とは、デザインの本質をとらえる言葉。つまり、デザインのヒントは日常生活の中に潜んでいて、頭で考えて生まれるものでも、また頭で理解するものでもないということです。つまり、ふだん何気なくしている行為の中に、人間の本能の本質があり、気づかれぬ何かがある。それを表現するのがデザインだと考えます。

- 今回のテーマ、"e-fashion" とは？

これまでも身に付けるコンピュータ、いわゆる Wearable Computer という考え方はあり、ヘッド・マウント・ディスプレイなどが開発され、小型化・軽量化が進んでいます。今回のテーマ、"e-fashion" はこれまでのウェアラブルの発想ではなく、「エレクトリックな発想でファッションをデザインしたらどうなるか？」という考えから各企業のデザイナーが集まって、自由に身に付けられるものをデザ



hole in the body  
(designed by Atsuhiko Yoneda)

- 米田さんのデザインされた "hole in the body" はどういった発想からデザインされたのでしょうか？

発想は至ってシンプルで、背中に穴を開けて向こうが見える服をつくってみたい、と。デザイン=ものカタチ、では無いと私は考えます。例えば狭い部屋で生活しても壁に映像を投影すれば自分がある部屋という空間を感じずに擬似的な空間を体感できる。今回私がデザインした革のカットソーは胸に縫込まれた CCD カメラが撮影した景色が背中の LCD を通して見えるというもの。つまり、映像をつかうことによって実際のカタチ以外のものもデザインに取り込むことを試みました。

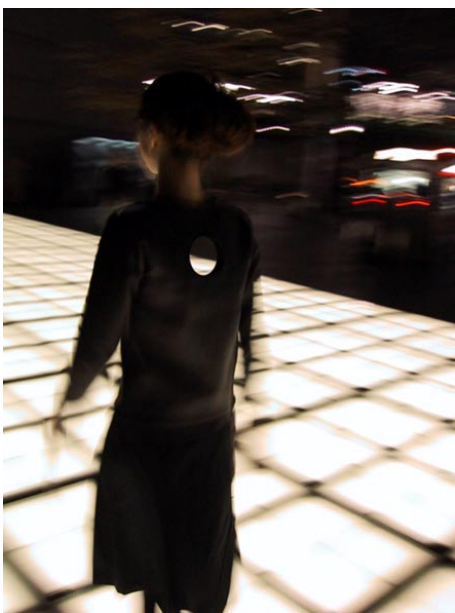
- 作品の撮影に東京国際フォーラムの光床を使ってもらいましたが、何か理由がありますか？

黒い革で服をつくったので、光が抜けているように見えてわかりやすい光床を撮影場所に選びました。結果的に印象的な映像を撮影することができたと思います。

- 今回の展示会を経験して感じたことは？  
 今回の展示会はそれぞれ違う分野の企業で仕事をしている企業内デザイナーが出展していたわけです。実際に企業内ではデザイナーの意見が製品に反映されるまでに至らないケースも多く、残念ながら個人の質が十分に引き出されているとは言えません。でも、今回の作品を見てもわかるように、根本の考え方がしっかりしていればカタチは自然と付いて来るものなのではないかと感じました。

また、今回の作品で、当初考えていた布に直接映像が投影されるようなイメージについて社内で話をしたところ、「エンジニアを刺激する面白いデザイン」とのコメントももらいました。デザイナーの発想がもとになって新しいディスプレイデバイスができる、などということがあっていいと思います。  
 今回作品をつくるにあたって、いろいろな分野の人たちとコラボレーションしながら仕事をする楽しさも知りましたし、今後は企業に対しても働きかけのできるデザイナーとして仕事をしていきたいと思っています。

- どうもありがとうございました。



東京国際フォーラムでの撮影風景。背中を抜ける光床。



真っ白な空間に立つ。

# 面出団長、

# NHK「首都圏ネットワーク」に出演！！

2002年1月24日 ON AIR

1月24日（木）のNHK「首都圏ネットワーク」に面出団長が出演しました。冬ならではの話題を集めた「冬点描」のコーナーで、東京の夜景に注目。やさしい、落ち着いた雰囲気的光と、店舗などのにぎやかな強い光。21世紀の東京の夜景は、両者のうまく混じりあった、洗練された夜景に変化しつつあります。



## ★★★★投稿規定★★★★

照明探偵団通信 vol.13（次号）の原稿を募集しています。独自の照明探偵レポート、光に思う今日の日本、照明について知りたいこと、疑問に思っていることなどなど、テーマは何でも結構です。日頃ひかり、あかりなどについて思っていることや様々なレポートを照明探偵団通信に発表してみませんか。原稿の送付方法は、

- 原稿をテキスト形式で保存したフロッピーを送付
- e-mailで送付

（メール上記述でも原稿テキストファイル添付でもOK）

- FAXで送付 ●郵送で送付

のいずれかをお願いいたします。また、このほかの送付方法をお考えの方は、事務局までご相談ください。投稿お待ちしております！

照明探偵団・事務局  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10 ライティングプランナーズアソシエーツ内  
TEL: 03-5469-1022 FAX: 03-5469-1023  
e-mail=tanteidan@lighting.co.jp <http://www.lighting.co.jp/tanteidan/>

【照明探偵団の活動は以下の23社にご協賛いただいております。】

ルートロンアスカ株式会社 岩崎電気株式会社 松下電工株式会社 東芝ライテック株式会社 小糸工業株式会社 三菱レイヨン株式会社 ヤマギワ株式会社 株式会社ウシオスペース 山田照明株式会社 マックスレイ株式会社 オーデリック株式会社 ニッポ電機株式会社 株式会社エルコ・トートー 株式会社ウシオユーテック 日本フィリップス株式会社 小泉産業株式会社 株式会社遠藤照明 三菱電機照明株式会社 大光電機株式会社 湘南工作販売株式会社 金門電気株式会社 ヨシモトポール株式会社 日本電池株式会社

## 照明探偵団日記

立春も過ぎると陽の光が勢い色めきたってくるのを感じます。この時期まだまだ寒い日は続きますが、冬から春への確実な変化が日々の光の移ろいにも感じられる毎日。“立春”は地球から見た太陽の位置に基づく季節区分『二十四節気』（中国から渡来した季節区分で、太陽の黄道上の位置を24分割したもの）のひとつで、中国・黄河の中・下流域での季節区分をもとにしているそうです。そのため日本での季節感とは少しずれる部分もありますが、太陽の位置からも春が近付いて来ている！ということを実感できますね。照明探偵団でトピックにする光と言うと、ついつい人工光が主流になってしまいますが、自然光でしか表現し得ない巧みなライティングが存在するのもこれまた確か。時には自然界にある光の現象を観察し、その効果についてじっくり検証してみるのもいかがでしょうか？

（田沼彩子）